

特別支援教育部会

① 視点説明

視点説明	県立都城きりしま支援学校	教諭	池上千紗
------	--------------	----	------

② 授業発表

	学年	単元	発表者
I	小学部	ボール運動系 (ボールを使った運動やゲーム)	県立都城きりしま支援学校 教諭 川越まゆみ
II	高等部	球技 (ゴール型：バスケットボール)	県立都城きりしま支援学校 教諭 丸田奏絵

③ 研究発表

活動報告及び研究発表題目	発表者
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて ～学部間のつながりを意識した指導の取り組み～	県立日向ひまわり支援学校 教諭 藤本圭子

④ 授業発表・研究発表協議

役職名	氏名		
指導助言者	日本体育大学体育学部	准教授	村井敬太郎
	県教育庁特別支援教育課	指導主事	永田賢吾
司会者	県立日向ひまわり支援学校	教諭	臼木洋智
記録者	県立都城きりしま支援学校	講師	宮内浩樹
	県立都城きりしま支援学校	講師	荒武大輝
進行	県立都城きりしま支援学校	教諭	諏訪田七月

特別支援教育の部会の研究

1 研究主題

「生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育む体育科・保健体育科学習の在り方」

～主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業の創造と展開～

2 主題設定の理由

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領総則、高等部学習指導要領総則において、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学習評価の充実について新たな項目が置かれた。具体的には、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」、「評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価すること」を示し、授業の改善と評価の改善を両輪として行っていくことの必要性を明示している。教師が指導のねらいに応じて授業で児童生徒の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かしていくことが今求められている。質の高い深い学びを目指す中で、教師が指導方法を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を図ることや児童生徒自身が学んだ知識を活用し、仲間と協力して課題を解決していこうとする力を育成することが必要だと考える。

本校の児童生徒の実態を見ると、自分の意見や考えを適切に伝えることができず、周囲の意見に流されてしまったり、これまでの経験や失敗から自信がもてず、人間関係を築いていくことに不安があったりする児童生徒が多いと感じる。子供たちが将来の自己実現や社会参加を目指すためには、様々な課題に主体的に向き合い、他者と協働して課題を解決していく力を身に付けていくことが課題である。

そこで本研究では、学習指導要領に示す目標の実現、特に学習評価の充実に視点を当て、小学部から高等部までの各段階の評価規準を作成し、学習評価の充実を図る研究を進めることにした。また、タブレット端末やワークシートを活用し、授業の学習内容や目標について、個人や学習グループでの相互評価ができるようにすることで、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた授業改善ができると考え、本主題を設定した。

3 研究の仮説

ボール遊びやボールを使った運動やゲーム、球技の授業において、観点別学習状況評価の各観点の評価規準を作成することで、児童生徒の実態や各段階に応じた指導方法の工夫ができ、より実態に応じた目標の設定や評価の仕方ができるであろう。また、小学部から高等部までの各段階の評価規準を作成することで、12年間のつながりを意識した授業が展開できるであろう。

4 研究の内容

(1) 指導方法の工夫

- ① 小学部から高等部までの12年間を見通した各段階の評価規準の作成
- ② 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくり

5 研究の実際

(1) 指導方法の工夫

① 小学部から高等部までの12年間を見通した各段階の評価規準の作成

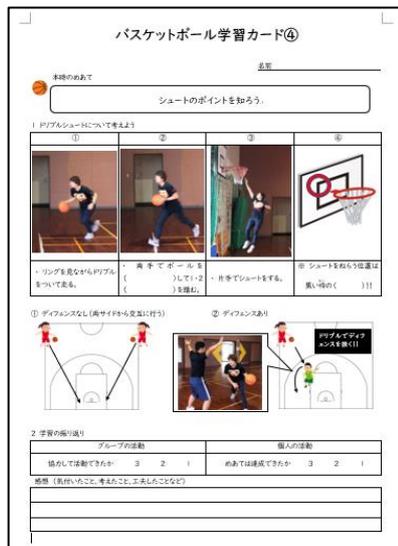
小学部「ボール遊び」、「ボールを使った運動やゲーム」、中学部、高等部「球技 ゴール型」における単元の評価規準を作成した。評価規準の作成に当たっては、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(小学校・中学校)を参考にすると、学習指導要領解説に示されている「例示」を基にして単元の評価規準を作成することが手順として示されている。しかし、特別支援学校の学習指導要領解説においては「例示」が示されていないため、各評価の観点において、小学部1段階から高等部2段階までの評価規準を学校独自に作成し、各段階の目標の設定や評価の仕方を工夫した。

段階	高等部2段階	高等部1段階	常時支援	中学部2段階	中学部1段階	常時支援	小学部3段階	小学部2段階	小学部1段階	
思考・判断・表現	C-1	・提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。	・提供された練習方法から、自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。	・提供された練習方法から、教師と一緒に自己の課題に応じた練習方法を選んでいる。	・提供された練習方法を通して、教師と一緒に自己の課題を見付けている。	・提供された練習方法を通して、教師と一緒に課題を知ることができる。				
	C-2	・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた活動の仕方を見付けている。	・仲間と協力する場面で、役割に応じた活動の仕方を見付けている。	・教師や仲間と一緒に協力し、自分の役割に気付くことができる。	・教師と一緒に仲間と協力し、仲間と協力する場面での自分の役割に気付くことができる。	・提供された活動場面に応じた役割から、教師と一緒に自分の役割を知ることができる。	・自分が取っている活動を主に選択している。			
	C-3	・技能の程度を踏まえ、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。	・技能の程度を踏まえ、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法に気付くことができる。	・楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けることができる。	・仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法に気付くことができる。	・仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けている。	・楽しむための練習やゲームを行う方法を教師と一緒に見付けることができる。			
	C-4	・仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝え、チームへの関わり方を見付けている。	・仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝えている。	・仲間と話し合う場面で、教師と一緒にチームでの活動に参加しようとしている。	・仲間と話し合う場面で、自分の考えや意見を伝えている。	・仲間と話し合う場面で、教師と一緒に自分の考えや意見を見付けている。	・教師と一緒に話し合いに参加しようとしている。	・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。	・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。	・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。

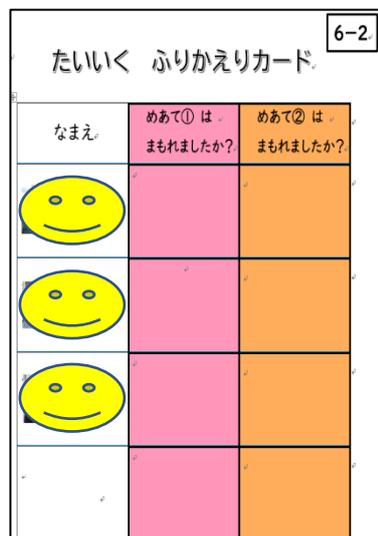
小学部・中学部・高等部のつながりを意識した評価規準

② 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくり

各領域において、障がいの状態や発達段階等を考慮したグループ分けを行い、集団の中で係や役割をもたせ、仲間と協力して責任感や連帯感を意識させる工夫を行った。また、授業の内容やポイントなどをタブレット端末やワークシートを活用して確認させ、話し合いの中で自ら考え、気付き、判断する力を身に付けられるように工夫した。



高等部ワークシート



小学部振り返りシート



タブレットで作成した授業のポイント

6 研究の成果と課題

(1) 成果

- 小学部から高等部までの各段階における評価規準を整理したことで、12年間を見通した評価規準を作成することができ、児童生徒の実態に応じた目標の設定や評価がしやすくなった。
- 評価するポイントが明確化されたことで、複数の教員が役割を分担し、協力し合いながら指導計画を立て、指導し評価するチームティーチングがより機能的になった。
- 指導と評価が一体化できるようになり、よりよい授業の改善につながった。
- タブレット端末やワークシートを活用することで、児童生徒は見通しをもって活動に取り組むことができた。特に高等部の生徒は、対話的な活動が増え、生徒同士で前回の授業反省を生かしながら練習の目標やポイントを言い合えるような話し合いを行うことができるようになってきた。

(2) 課題

- 今回は「球技 ゴール型」の評価規準を作成したが、特別支援学校の学習指導要領解説においては技能以外の観点は「例示」が示されていないため、小学校や中学校の学習指導要領を参考にしながら作成した。そのため、各段階の評価規準を作成するのに多くの時間がかかってしまった。今後各領域の評価規準を作成していくためには、特別支援学校教育研究会保健体育科代表者部会をはじめ、各学校と連携していく必要がある。
- 評価規準を作成したものの、それを個別の指導計画に生かすまでには至らなかった。今後、作成したものを基に指導の個別化を図り、一人一人の実態に基づいた指導目標や内容、方法等を明確にした個別の指導計画を作成していく必要がある。

特別支援教育 小学部第4・5・6学年 体育科学習指導案

期 日：令和3年10月29日（金） 2校時
小学部4～6年（男子21名女子6名）

場 所：都城きりしま支援学校体育館

指導者：川越まゆみ（T1） 沼口 竜馬（T2）
押川 秋水（T3） 久保友里菜（T4）
平岡 千尋（T5） 渡辺 成未（T6）
工藤 美紀（T7） 高瀬 雅代（T8）
淵田 佳寿（T9） 治田 里香（T10）
大平落恭子（T11） 古川淳一郎（T12）
武田 文博（T13） 坂元嘉代子（T14）
大山祐一郎（T15） 野田 裕子（T16）
後藤 裕子（T17）

1 単元名 「ボール運動」

2 単元の目標

- (1) 自分でまたは必要に応じて支援を受けながら、ボールを使った基本的な運動や動き「投げる」「蹴る」「捕る」に取り組み、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことができる。
(知識及び技能)
- (2) ボールを使った基本的な運動や動きに慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動や動きをしようとするすることができる。
(学びに向かう力、人間性等)

3 運動の一般的特性

本単元は、特別支援学校小学部学習指導要領「体育 E ボール遊び（1段階）」、「体育 E ボールを使った運動やゲーム（2段階及び3段階）」について単元名を「ボール運動」とした。ボール運動はボールを使って競い合う楽しさに触れたり、友達と力を合わせてゲームをする楽しさや喜びを味わったりすることができる運動である。

ボールを使って楽しく体を動かす運動やゲームとは、「ボールを使った基本的な運動」と「ボールを使ったゲーム」、「友達を追いかけたり逃げたりするゲーム」で構成されている。ボールを投げたり、蹴ったりするといった簡単なボール操作を通して手や足の力の調整やバランスなどを学ぶことや簡単なきまりでゲームを個人対個人、または集団対集団で競い合う楽しさに触れることができる運動であることから、本単元に取り組むことは意義深いと考える。

4 児童の実態

(1) 運動に触れる楽しさの体験状況

本校の小学部は、通常学級30名、重複障がい学級34名、計64名（男子46名、女子18名）が在籍しており、本単元のグループは4・5・6年生の27名（男子21名、女子6名）である。知的障がいだけでなく、肢体不自由や聴覚障がいを有する重複障がい学級と通常学級の児童が合同で学習を行っている。体育の授業は週3時間あり、その中の1時間は表現運動を行っ

ている。体育の授業以外では、休み時間に中庭でブランコや三輪車で楽しく体を動かしたり、教師や友達と鬼ごっこなどをしたりして楽しんでいる児童もいるが、一方で室内遊びを好む児童や体力が低い児童も多く、活動中に怪我をしてしまうことがないように個別的な安全面の配慮が必要である。ボールを使った運動については、5、6年生については同様の授業を経験しており、単元が始まる前から楽しみにしている児童が多い。4年生については低学年時に「ボール遊び」について、同様の授業で「持つ」、「転がす」等の基礎的な動きをサーキット形式で学習をしており、低学年から高学年へスムーズに移行できるように内容を連携させている。

(2) 「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の習得状況

「知識及び技能」に関しては、小学部段階では「ボール遊び」、「ボールを使った運動やゲーム」を学習する上で、簡単なきまりや運動によってボールを投げたり、蹴ったりする技能があるということを知り、中学部や高等部では「球技」への授業に発展していくことを見通した知識の習得が必要である。習得状況としては、児童は簡単なきまり「順番を守ろう」や「時間になったら交代する」等をイラストで表示しているが、意識して守ろうとすることができる児童は全体の約64%である。また、いろいろな球技の種類があることやそれぞれに必要な技能があることについては知識や興味が乏しく、まだ知らない児童も多い。技能については、「投げる」、「蹴る」、「捕る」などの基本的なボール操作にしばって取り組んでいる。その際、3段階の児童には見守りや言葉による支援を行い、2段階の児童には教師が手本を示して模倣しやすいようにしている。模倣の難しい1段階の児童については教師が手を添え、一緒に体を動かしながら模倣できるように支援している。

「思考力、判断力、表現力等」に関しては、発語により自分から発表や気持ちを伝えることが難しい児童が多い。種目を教師と相談して選択すること、発表や意見を仲間に伝えることを、理解しやすい簡単な言葉で授業の目標として提示するようにしている。手立てとして使うイラストカードは以前から活用しているが、ICT機器については、まだ導入が始まったばかりであり、体育の授業で活用するのは本単元が初めてである。また、これまでは小学部では体育の授業で学習カードを使用する場面はなく、学級担任による称賛や観察による振り返りしか取り組めていなかった。他教科では生活単元学習のきりっこタイムにおいて同様の学習カードで振り返りを行う場面があり、3段階、2段階の児童は自分の気持ちを伝えようとする様子がみられる。児童が自己評価を行うことはめあての確認になり、「思考力、判断力、表現力」を育てるための1つの手立てとして有効であると感じたため、体育の授業においても活動量の確保をしつつ、学習カードによる振り返りを今年度から始めたところである。

「学びに向かう力、人間性」に関しては、「きまりを守ろう」や「応援しよう」、「仲良くしよう」についてこれまでも他教科や他の単元で繰り返し指導してきた内容であり、意識できている児童が多く、笑顔で楽しい体育の授業に取り組むことができている。高学年になり準備や片付けについても積極的に取り組む児童が多く見られる。特に6年生については、中学部への準備段階として捉えて、積極的に取り組もうとする児童を称賛するようにしている。

(3) 体力の状況 (令和3年度 新体力テスト項目別結果一覧 6年生の結果を参照)

児童名	50m(秒)	ハンドボール投げ(m)	立ち幅跳び(m)	握力左右平均(kg)	上体起こし(回)	反復横跳び(回)	長座体前屈(cm)	シャトルラン(回)
A	14" 18	6	97	6	9	11	18	7
B	15" 12	4	73	3	8	18	15	12
C	15" 33	3	75	8	11	21	22	16
D	8" 87	8	135	10	15	28	25	30
E	14" 65	4	95	9	記録なし	25	記録なし	7
F	19" 22	1	23	5	7	11	26	0

G	39" 09	3	27	5		測定不能	26	0
H	17" 99	1	37		10	記録なし	記録なし	1
I	41" 18	1	10	測定困難		4	測定困難	0
J	31" 72	3	25	5	5	16	40	0
K	16" 53	3	95	7	8	17	17	7
L	44" 39	1	20	2	7	8	32	0
M	42" 40	4	15	5	10	8	25	0
N	29" 81	1	10	2	3	8	16	0

新体力テストにおいては、正しい測定方法で実施することは難しいが、4、5、6年生のうち約半数が測定方法について概ね理解をして測定ができています。残りの約半数については理解や模倣が難しく、測定困難な児童が多い。また、測定方法を理解はしているが、体の正しい使い方や能力の発揮が難しい児童が多いため、実力を出せた数値とは言えない。小学部段階としては初めて体力測定を経験する段階であるため挑戦する気持ちを大切に、児童が自発的に取り組む態度を称賛しながら可能な範囲での測定をしている。

5 学習を進めるに当たって

本単元の学習を進めるに当たっては、手や足でボールを操作する運動であり、様々なボールを投げる、蹴る、捕る、打つ運動を中心に行い、主にサッカーやバスケットボール、野球につながる運動に興味をもち自分に合った運動を選んで取り組むことができるよう授業を展開していきたい。

授業計画の前半5時間を「ねらい1」、後半4時間を「ねらい2」、最後のまとめ3時間を「ねらい3」と設定する。「ねらい1」では、ボール運動の学習について興味のある身近な球技の映像を見て、球技の種類や練習方法などを知る学習をしていく。また、様々なボール運動種目によって、手を使ってボールを投げることや足を使ってボールを蹴ることについて知る。そして、動きを経験し、簡単なルールを確認しながら学習を進めていきたい。「ねらい2」では、「ねらい1」で行ってきたボール運動を、自分で選択する、または教師と一緒に選択し、「この運動をやってみよう」という気持ちを伝えることができるよう取り組ませたい。「ねらい3」では、「ねらい1・2」で行った基本的な動きを生かして友達と楽しみながらミニゲームに取り組めるようにしていきたい。

本時の学習では、教師や友達が実際に行ってきたボール運動サーキットの種目をイラストや写真を見て、自分は何をしたいか選ばせてから活動を行う。サーキット運動は、3～4種目できるような時間を設定しておく。選択した種目での活動は、実態に応じて児童ができる内容に設定しておき、T1の合図で決められた時間内に運動に取り組ませていく。活動中は、児童の活動意欲が継続することや時間の見通しがもてるようにタイマーを効果的に活用していく。活動場所では、動きや操作をイメージしながら確認できるように写真やイラストを掲示する。その中で、よい動きやできたことなどを称賛しながら自信ややる気をもてるようにしていく。学習の振り返りでは、本校での研究テーマでもある中学部、高等部までを見通したつながりある授業の工夫として、学習カードを使用した自己評価の時間を設けた。これまでの体育の授業では観察のみで、取組については、全体を称賛する程度で個別に振り返る時間を設けていなかったため、学習カードを準備することで、頑張ったことや楽しかったことを児童が自己評価できるようにしたい。

授業後には、特別活動（性の学習）で学習した「手洗い指導」や「感染症の予防」、「丈夫な体と病気」の学習を振り返り、うがいや手洗いなどの基本的な生活習慣が身に付くように意識させる。また、自立活動の学習内容であるコミュニケーション「気持ちを伝える」ことや生活単元学習（きりっこタイム）における「順番を守ろう」や「時間になったら交代する」、「勝っても負けても笑顔」の学習を進めておく。それにより、児童が体育を学習する上で思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度をより一層理解し、スムーズな導入につながるようにしたい。

単元途中や単元後も同様に、「学校における体育・健康に関する指導」との関連を十分に考慮し、ボールを使った運動の単元を振り返りながら学習を進めることで、教科等横断的な学びが実現するよう指導を進めていきたい。

6 単元の評価規準 (特別支援学校小学部学習指導要領)

	小学部3段階	小学部2段階	小学部1段階
段階別 单元名	「ボールを使った運動やゲーム」	「ボールを使った運動やゲーム」	「ボール遊び」
知識・ 技能	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けることができる。	教師の支援を受けながら、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをすることができる。	教師と一緒に、ボールを使って楽しく体を動かすことができる。
思考・ 判断・ 表現	ボールを使った基本的な運動やゲームの楽しみ方を工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝えることができる。	ボールを使った基本的な運動やゲームに慣れ、その楽しさや感じたことを表現することができる。	ボールを使って体を動かすことの楽しさや心地よさを表現することができる。
主体的に 学習に 取り組む 態度	きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しくボールを使った基本的な運動やゲームをしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするることができる。	簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく、ボールを使った基本的な運動やゲームをしようとするることができる。	簡単な合図や指示に従って、ボール遊びをしようとするることができる。

学習活動に即した評価規準

実態別 グループ	小学部3段階 A	小学部2段階 B	小学部1段階 C
知識	・球技には、友達と力を合わせて、ゲームをしたり体を動かしたりする運動があることを知り、球技の楽しさや喜びに触れている。(A-1)	・友達と一緒に、運動をすることは楽しいことだと知っている。(A-1)	・友達や教師と一緒に、運動をすることは楽しいことだと知っている。(A-1)
	・パスやドリブル、シュートなどのボール操作をしながら、得点することを知っている。(A-2)	・投げる、転がす、捕るなどのボール操作をしながら、ボールをゴールまで運ぶことを知っている。(A-2)	・投げる、転がす、捕るなどのボール操作があることを知っている。(A-2)
技能	・ねらったところにボールを転がしたり、投げる、蹴るなどしてゴールにシュートをして得点したりすることができる。(B-1)	・ねらったところにボールを転がしたり、投げたり、蹴ったりして的に当てたり得点したりすることができる。(B-1)	・ボールを転がす、投げる、蹴るなどして、的に当てることができる。(B-1)
	・友達と一緒にボールを投げる、捕る、蹴る、止めるなどの動きでキャッチボールやパスをしたり、ゴールに向かってシュートをしたりすることができる。(B-2)	・つく、転がす、投げる、当てる、捕る、打つ、蹴る、止めるなどの簡単な操作を行うことができる。(B-2) ・先生や友だちとボールの蹴り合いをすることができる。(B-2)	・ボールを転がす、投げる、蹴ることができる。(B-2)
思考・ 判断・ 表現	・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。(C-1・2・3)	・自分が取り組みたい活動を、イラストカードから選択している。(C-1・2・3)	・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組んでいる。(C-1・2・3)
	・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。(C-4)	・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。(C-4)	・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。(C-4)
主体的に学習 に取り組む 態度	・簡単なきまりを守り、友達と楽しくボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。(D-1~4)	・簡単なきまりを確認し、楽しくボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている(D-1~4)	・教師と一緒に簡単なきまりを確認し、ボールを使った基本的な運動やゲームに参加しようとしている。(D-1)
	・用具の安全な扱い方に気を付けようとしている。(D-5)	・教師の支援を受けながら、用具の安全な扱い方に気を付けようとしている。(D-5)	・教師と一緒に、用具を安全に扱おうとしている。(D-5)

※網掛け部分が本単元の評価規準

7 指導と評価の計画（ボールを使った運動やゲーム 小学部4・5・6年生）

時間		1	2	3	4	5
指導内容	知	A-1	A-1			
	技			B-2		
	思				C-4	
	態	D-5	D-1	D-2		D-1
学習過程	0	1 学級で挨拶・本時の学習を知る。 2 オリエンテーション ○学習の流れを知り、見通しをもたせる。 ○映像を見て運動の種類や体の使い方について知る。	1 3分間走を行う。 2 集合、挨拶、ラジオ体操をする。 ① 3分間走をする（「終わりました」と確認する。） ② はじめの挨拶（「終わりました」と確認する。） ③ ラジオ体操			
	10		3 本時の学習を知る。 ④学習内容を知る ⑤ボール運動 ⑥振り返り ⑦おわりの挨拶			
	20	3 集合し、説明を聞く。 ねらい！ （ボール運動について）しよう（練習方法について）しよう やってみよう じゅんばんをまもろう じかんをまもろう	4 ボール運動の手本をみる。 5 準備運動とボール運動をする。 ○シュートしよう ○ドリブルしよう ○パスしよう(バスケット・サッカー) ○うとう ○キャッチしよう ○なげよう(やきゅう)			
	40	6 振り返りをする。 7 挨拶をする。	5 振り返りをする。 6 挨拶をする。			
評価	知	観察	観察			
	技			観察		
	思				学習カード	
	態	学習カード	観察	学習カード		観察
準備物	パソコン 動画のプレゼンテーション	CDデッキ、マイク、タイマー、タブレット端末、カラーコーン6、サッカーボール6、サッカーゴール1、バスケットのゴール1、バランスボール1、バスケットボール6、かご9、活動の内容表、ストラックアウト板、野球用ボール6、バット2、学習カード				
他教科との関連	特別活動（せいの学習）「手洗い指導」「感染症の予防」「丈夫な体と病気」 自立活動の学習内容（コミュニケーション「気持ちを伝える」） 生活単元学習（きりっこタイム）「順番を守る」「時間を守る」「勝敗の受け入れ」 道徳科：「あきらめない心」「相手を理解する心」					

時間		6(本時)	7	8	9	10	11	12	
指導内容	知					A-1			
	技				B-2			B-2	
	思	C-1~3・4			C-4				
	態		D-5	D-4		D-1	D-2	D-4	
学習過程	0	1 3分間走をする。 2 集合、挨拶、ラジオ体操をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ① 3分間走をする ② はじめの挨拶 ③ ラジオ体操 </div>				1 3分間走をする。 2 集合、挨拶、ラジオ体操をする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ① 3分間走をする ② はじめの挨拶 ③ ラジオ体操 </div>			
	10	3 本時の学習を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ④ 学習内容を知る ⑤ ポール運動 ⑥ 振り返り ⑦ おわりの挨拶 </div>				3 本時の学習を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ④ 学習内容を知る ⑤ ミニゲーム ⑥ 振り返り ⑦ おわりの挨拶 </div>			
	20	4 ポール運動をする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;"> ねらい2 えらぼう つたえよう やってみようチャレンジしよう もとにもどそう はっぴょうしよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ○シュートしよう ○ドリブルしよう ○パスしよう(バスケット・サッカー) ○うとう ○キャッチしよう ○なげよう(やきゅう) </div>				4 ミニゲームをする。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;"> ねらい3 ゲームをしようなかよくたのしもう やってみよう おうえんしよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> ○ときりサッカー ○ときりやきゅう ○ときりバスケット </div>			
	40	5 振り返りをする。 6 挨拶をする。				5 振り返りをする。 6 挨拶をする。			
評価	知					観察		観察	
	技				観察			観察	
	思	学習カード			観察				
	態		観察	観察		学習カード	学習カード	観察	
準備物	CD デッキ、マイク、タイマー、タブレット端末、カラーコーン6、サッカーボール6、サッカーゴール1、バスケットのゴール1、バランスボール1、バスケットボール6、かご9、活動の内容表、ストラックアウト板、野球用ボール6、バット2、学習カード					CD デッキ、マイク、タイマー、タブレット端末、カラーコーン4、活動の内容表、サッカー用具・バスケットボール用具一式・野球用具一式、学習カード			
他教科との関連	特別活動(せいの学習)「手洗い指導」「感染症の予防」「丈夫な体と病気」 自立活動の学習内容(コミュニケーション「気持ちを伝える」) 生活単元学習(きりっこタイム)「順番を守る」「時間を守る」「勝敗の受け入れ」 道徳科:「あきらめない心」「相手を理解する心」								

8 本時の目標 (6/12)

- A: 少ない支援で活動できるグループ (小学部 3 段階)
 B: 場面に応じた支援で活動できるグループ (小学部 2 段階)
 C: 支援を常時必要とする児童グループ (小学部 1 段階)

(1) 本時の目標

	グループ・段階		目 標
思考力、判断力、 表現力等	A	小学部 3 段階	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。 自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。
	B	小学部 2 段階	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組みたい活動を、イラストから選択している。 教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。
	C	小学部 1 段階	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組んでいる。 教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。

(2) 本時の評価項目

	グループ・段階		評 価 項 目
思考・判断・表現	A	小学部 3 段階	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができたか。 自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。
	B	小学部 2 段階	<ul style="list-style-type: none"> 自分が取り組みたい活動を、イラストから選択することができたか。 教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。
	C	小学部 1 段階	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができたか。 教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができたか。

9 学習指導過程

※下線部は、「指導と評価の計画」手立ての一体化表より抜粋

時間	学習内容及び活動	グループ別学習活動及び教師の支援			資料準備
		A	B	C	
		小学部3段階 (赤ビブス)	小学部2段階 (青ビブス)	小学部1段階 (ビブスなし)	
はじめ 10	1 3分間走をする。	体育館に集合し、3分間走をする。			<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボード ・ マイク ・ タイマー ・ 写真・イラスト ・ CD・CD デッキ ・ カラーコーン4 ・ 活動の内容表 ・ めあてカード
2 はじめの挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追い抜くときは安全に気を付けるように言葉を掛ける。(T2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実態に応じて手をつないだり、併走や後ろからの見守りをしたりしながら、児童と一緒に走り、必要に応じて安全面について言葉を掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童と一緒に併走をする。必要に応じて手をつなぐようにする。安全面に注意をして誘導する。 ・ 走ることが難しい児童はコーンの内側を歩くように促す。必要に応じて手をつなぐようにする。(T3～7、11～17) 		
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策のため授業前に各学級担任が手洗いと人数確認、体調チェックを行う。欠席者がいる場合は各学級担任より報告を受ける。(T1) ・ 感染症対策のため体育館の窓を開け、3密を防ぎ安全を確保する。(T2) ・ 本時の流れがわかるようにホワイトボードに掲示物を掲示する。(T1) 			
		係の号令に合わせて、始まりのあいさつをする。			
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 係が「2を出して下さい。」と言ったら2の指文字ができているか全体を確認する。(T1) ・ 係が「始めます。礼」と言った後に、T1が全体の声に合わせて「お願いします。」とマイクで言い、誘導する。(T1) 			

な か 20	3 ラジオ体操をする。 4 本時の学習内容を知る。	体操隊形に広がり、ラジオ運動をする。			・ CD ・ 活動の内容表
	① 3ぶんかんそう ② あいさつ ③ ラジオたいそう ④ せんせいのはなし ⑤ ポールうんどう ⑥ ふりかえり ⑦ おわりのあいさつ	・ 体操のポイントである かかとの上げ下げや腕 の伸ばし方について意 識ができているところ は称賛する。(T2)	・ 児童に見える位置で手 本を示しながら一緒に 体操し、自発的な動きが できているところは称 賛する。(T8~10)	・ 児童に見える位置で手本 を示しながら一緒に体 操し、自発的な動きにあ わせて身体的補助をし ながら体操をする。(T 3~7、T11~17)	
		本時の学習の流れについて、教師の話を聞く。			
		本時の目標を確認する。「やりたい運動を選ぼう。」「やりたい運動を伝えよう。」			
		・ 本時の学習の流れや目標について見通しがもてるように写真やイラストを提示する。 (T1) ・ 前時までの学習で取り組んだ内容を思い出せるようにカードを提示する。(T1) ・ <u>授業に消極的な児童には、楽しそうな活動であることを伝えて気持ちが高まるように言葉掛 けをする。(T2~T17)</u> ・ 前時までの目標である「やってみよう」についても振り返りながら本時はやってみたい運動か ら取り組むことができることを伝える。(T1)			
		・ 学習のめあてカード を使用し、確認させ る。	・ 学習のめあてカードを 使用し、教師の呼びか けで確認させる。	・ 教師と一緒に活動の めあてを確認させる。	・ 学習のめあてカード
		友達や教師と一緒に運動を選び活動場所に移動する。			

		<ul style="list-style-type: none"> ・<u>使用した用具や場所の確認を行い、ICT機器を活用して運動の動画を確認し、取り組みたい活動をボードに貼り伝えられるように時間を設定する。</u> ・<u>前時までの活動で成功体験を積み、自信をもって選ぶことができるように助言する。</u> (T1、T9、T17) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>教師と相談する際に、自分の考えを、イラストカードを使用して選択したり、伝えたりする場面を設定する。</u> ・<u>前時までの活動で体験を積み、取組のよかった活動から選ぶことができるように言葉掛けをする。</u>(T3、T4、T6、T7、T8、T10、T11、T14) 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>前時までの授業で児童が興味を示した用具や場所を提示したり、ICT機器を活用して運動の動画を確認したりすることで興味を示すのを待つ。</u> ・<u>表情や態度から意思を読み取り、興味を示した場所に誘導し、自発的に取り組もうとするのを待つ。</u> <u>動きがない場合は介助したり言葉掛けをしたりする。</u>(T2、T5、T12、T13、T15、T16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ イラストカード ・ ICT 機器
	<p>5 ボール運動サーキットをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>サッカー ○シュートしよう ○ドリブルしよう ○パスしよう バスケットボール ○シュートしよう ○ドリブルしよう ○パスしよう 野球 ○うとう ○なげよう ○キャッチしよう</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> <p>選んだ運動を行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ やりたい運動は何かボードに貼りに行かせる。必要に応じて運動の正しい行い方や安全面での注意点について言葉を掛ける。 ・ 3段階の児童は、1つの運動が終わったら、次にやりたい運動をボードに貼るように伝えておく。 (T1、T9、T17) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>タイマーが鳴ったら次の活動に移る。3分を3カ所行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 決められた時間になったら練習の終わりを知らせ、各学級で片付けさせる。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ やりたい運動は何か教師と相談して移動する。 ・ 手本を見せながら行う。 (T4、T7、T8、T9、T10、T11) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が児童の実態や課題に応じて次の運動を提案して次の場所へ誘導する。手本を見せて一緒に行う。(T2、T3、T5、T6、T12、T13、T14、T15、T16) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ カラーコーン6 ・ サッカーボール6 ・ サッカーゴール1 ・ バスケットのゴール1 ・ バランスボール1 ・ バスケットボール6 ・ ストラックアウト ・ 野球用ボール(テニスボール)6 ・ バット2 ・ CD

ま と め 10	6 振り返り	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 本時の振り返りを行う。 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように助言する。</u> ・ <u>発言するときに1人ずつ時間を設ける。</u> ・ <u>学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように教師が選択肢を与える。</u> ・ <u>話し言葉やカードの指差しなどで表現できるようにする。</u> ・ <u>学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> </td> <td style="width: 33%; padding: 5px; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>活動に使用する際に、児童の状況や仕草から興味を示したことを読み取り、児童に問いかける時間を設ける。</u> ・ <u>教師と一緒に学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> </td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・ 評価カードを見せて、各学級の達成具合を紹介する。(T1) ・ 楽しく自主的に活動できていた児童や、意見を伝えることができた児童について称賛する。(T1、T2) ・ 次時も好きな運動や苦手な運動を自分で選択して活動することを伝える。(T1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように助言する。</u> ・ <u>発言するときに1人ずつ時間を設ける。</u> ・ <u>学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように教師が選択肢を与える。</u> ・ <u>話し言葉やカードの指差しなどで表現できるようにする。</u> ・ <u>学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>活動に使用する際に、児童の状況や仕草から興味を示したことを読み取り、児童に問いかける時間を設ける。</u> ・ <u>教師と一緒に学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボード ・ 評価シール ・ 学習カード
	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように助言する。</u> ・ <u>発言するときに1人ずつ時間を設ける。</u> ・ <u>学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>自分の気持ちや選んだ運動について言葉で伝えることができるように教師が選択肢を与える。</u> ・ <u>話し言葉やカードの指差しなどで表現できるようにする。</u> ・ <u>学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>活動に使用する際に、児童の状況や仕草から興味を示したことを読み取り、児童に問いかける時間を設ける。</u> ・ <u>教師と一緒に学習カードに自己評価のシールを貼らせる。</u> 			
7 終わりの挨拶をする。	<div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 係の号令に合わせて、終わりのあいさつをする。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 係が「2を出して下さい。」と言ったら2の指文字ができているか全体を確認する。(T1) ・ 係が「終わります。礼」と言った後に、T1が全体の声に合わせて「ありがとうございました。」とマイクで言い、誘導する。(T1) 					

10 本単元に関する児童の実態及び本時の目標

【評価規準】◎・・・よくできた ○・・・できた △・・・もう少し

	氏名	児童の実態	本時の目標	評価項目	評価
小学部 3 段階	A	ボールを使って体を動かすことが好きである。周りの意見に合わせることは少なく、自分から意見を伝えることが多い。	・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。	・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができたか。	
			・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。	・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。	
小学部 2 段階	B	ボールを使って体を動かすことが得意である。自分のやりたい活動よりも友だちの意見にあわせることが多い。	・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができる。	・自分が取り組みたい活動を主体的に選択することができたか。	
			・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。	・自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。	
小学部 1 段階	C	ボールを投げたり蹴ったりすることができる。失敗すると自信をなくし、消極的になることがある。	・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択している。	・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択することができたか。	
			・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。	・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。	
小学部 1 段階	D	簡単なきまりを守って活動することができる。自分から意見を伝えることは苦手である。	・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択している。	・自分が取り組みたい活動を、イラストから選択することができたか。	
			・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができる。	・教師の支援を受けながら、自分の考えや気付いたことを他者に伝えることができたか。	
小学部 1 段階	E	指示理解は難しいが教師の模倣をすることができる。初めての活動や環境の変化は嬉しくて興奮気味になることがある。	・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができる。	・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができたか。	
			・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。	・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができたか。	
小学部 1 段階	F	自発的な動きは少ないが、教師が手を添えると体を動かそうとすることができる。表情や態度で運動への意欲を表すことができる。	・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができる。	・教師と一緒に活動を選択し、選択した活動に取り組むことができたか。	
			・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができる。	・教師と一緒に運動の楽しさや心地よさを表情や仕草で表現することができたか。	

※児童全員分作成しているが、参考資料として各グループ2名ずつ記載。